

1

2月16日(日)、僕は新年度体験 Days で住吉校に出勤していた。来年の受講を検討してくれているのはどのような生徒だろうかとソワソワしているところに、移動されて南先生が来られた。

「そういえば、森先生、今年も東大に応援に行かれるんですか？」

「担当している生徒のうち、かなりの人数が受けますからね、行きますよ」

「では、今年こそ応援の記録を書いてくださいね」

……ん、おかしい。

「え、去年書いていませんでしたっけ？」

「そうでしたっけ？」

なにやらすれ違いがあった模様。確かに、去年の記録はウェブサイト上には上がっていない……。確かに書いたのに。去年も、ちゃんと「そのため」に応援ついでに、東京の聖蹟桜ヶ丘駅に近い住宅地の中にある神社、金比羅神社に合格祈願に行ってきたのに。



聖蹟桜ヶ丘の金比羅神社

耳をすませばカントリーロードが聞こえてきそう

ま、済んだことは仕方がない。今年も、関東地方のどこか靈験あらたかな、聖地とでもいうべき神社(長いので、以下「聖地」)に詣でて、そして応援に行くことにしよう。

2

2月23日(日)、夜22時。夜行バスに乗り込む。「東大の応援」となると、当日すなわち25日の朝、7時30分に正門の前に居なくてはならない。朝一の新幹線に乗っても間に合わない。だから前日に着くように移動する。例年は、24日に新幹線移動していた。では、今年はなぜ夜行バスで移動している

のか。「交通費」を安く浮かそうとか、そんな魂胆ではない。先ほども述べたが朝一の新幹線の到着時刻は遅く、東京到着が大体9時ぐらい。夜行バスなら7時ぐらいにはもう着いている。この2時間差が大きい。実は東京都心部からせいぜい2時間ぐらいで行けそうな「聖地」は昨年、一昨年で行ってしまっている。残っている、著名であり、かつ聖地とでもいうべき神社はすべからく遠いのである。なので、朝早くに東京を出発したい。だからこそその夜行バスである。

しかし22時なんて普段なら授業が終わってすぐといった時間。全然眠くならない。「東京が名古屋ぐらいの場所にあればこんなに大変な思いをしなくてもいいのに」といったことをブツクサとつぶやきながら、睡魔の訪れを待つ。ところで、薄暗いところで眠れない時間を過ごしていると、思考があちらこちらと飛んで行く。東大や京大は予想したような問題が出されるだろうか、あの生徒は過度な緊張をしていないだろうか、来年度あらたに担当する講座では一体どんなことをしようか、と取り留めない。ようやく寝付けたのは短針がテッペンを指して、さらに2時間ほども経ってからだろうか。

3

2月24日(月)、朝7時。定刻に夜行バスは新宿駅に到着。その足でJR中央線に乗り秋葉原へ。途中下車したかったんですけどもね。魅力的な街じゃないですか、秋葉原。しかし、今日の目的は聖地での合格祈願。秋葉原は単なる乗換駅に過ぎない。グッとこらえ、東京メトロ日比谷線に乗り換え北千住へ。さらに東武伊勢崎線に乗り換えて久喜と館林で乗り換え。久喜―館林間では個人的に懐かしい、2年前の深夜に合格祈願してきた、聖地である鷲宮神社の最寄り駅「鷲宮」を通過。生徒の頭上にラッキィな星が輝きますように、なんて祈ったものだ。



少し怖い夜の鷲宮神社
最後に笑うのは研伸生のはず！って

ということで、都合4回も乗り換えてたどり着いたのは東武、足利市駅。なんと栃木県である。東大の応援に来てなぜか栃木。東京から北関東。東京から約3時間。遠かったー！ ちなみに人生初の栃木県である。

事前のリサーチで、目的の聖地と駅が相当に離れているということは押さえていた。「歩くと片道1時間はくだらない」らしい。さて、どうしたものかな、と駅を出て見渡せばレンタカーが。3時間で約1,000円とのこと。なかなかお安いが、「旅先」で事故なんかしては大変。明日、受験生の緊張をほぐすのが主目的であるのに、それが果たせるかどうか分からなくなる。悩んだ末、却下。仕方ないな歩かか、と思ったタイミングで目に入ったのは「観光案内所」。とりあえず入る。

「恐れ入ります」

「はいはい、なんでしょう？」

「^{目的の聖地}〇〇〇は遠いものでしょうか？」

「遠いですねー。」

「ということはやはりあそこのレンタカーを借りるのが無難でしょうか？」

「あ、うちでレンタサイクルしていますけれども……」

聞けば、3時間500円で自転車を貸してくださるとのこと。

「では、お借りします」

「足利は歴史ある街で、見所も多いですから、よければこれもお持ちください」

旅行の情報誌「るるぶ」の、抜粋版のような、足利のために特別編集された冊子をいただく。親切！



足利だけに尊氏号と勝手に命名
森を乗せ、走行距離約15km

頂いた情報誌とにらめっこ。織物の街として知られる足利の守護神を祀る神社、足利織姫神社なるものがあるらしい。ついでだしこれも参詣しておこう。神社だし。そこから本来の目的地である聖地までの道中に、クイズで聞いたことがある ^{ぼんなじ} 鑊阿寺 とか足利学校とかがあらしいので、立ち寄って

から行こう。……僕がクイズ好きだとかそろそろ忘れられている設定(?)の気がする。サブカルチャー好きだけではない、博覧強記の予備校講師である、とか自分で言っちゃう。

まあ、驚いた。足利織姫神社に着くやいなや出迎えてくれたのは写真ののぼり。あー、そういえば足利市は自治体が積極的にキャラクタを前面に押し出した地域振興、俗に言う「萌えおこし」をやっていると聞いたことがあった。これかー。



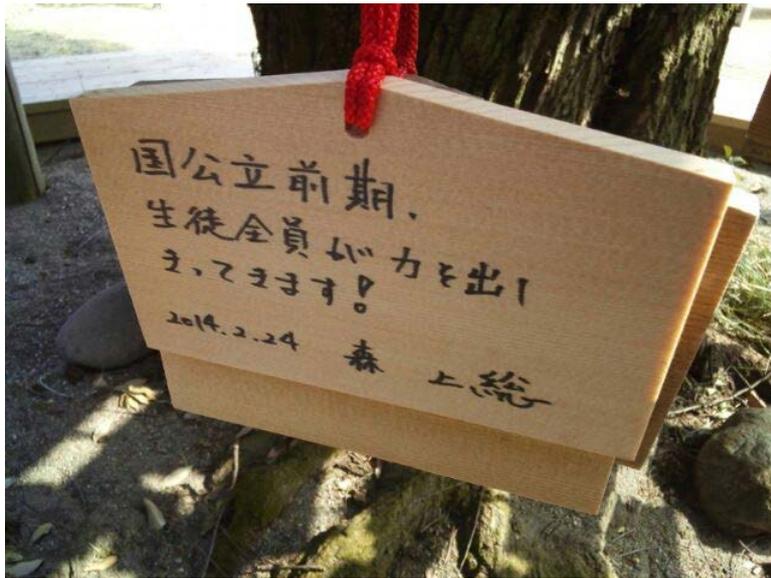
原作をもたない、足利市オリジナルのキャラクタ
こういった「原作なし萌えおこし」は珍しい

のぼりに感心しつつお参り。絵馬を買いに行くと、社務所に「合格飴」なんていうものも売っていたので、こちらも購入。明日、東大で遭遇できた生徒に配ろう。



絵馬と「合格飴」

「合格飴」、美味しかったのだろうか



絵馬にはお祈りではなく自己暗示
神に頼るなんてどうかと思うよ

6

鑿阿寺は、もともとは平安末期に足利氏の祖である源義康が構えた屋敷。足利学校は室町から戦国にかけて儒教の指導および兵法と易法の研究を行っていた教育機関。一通り見て回っていると意外と時間が経過してしまっている。レンタサイクル、1時間延長するごとに200円の追加料金だとのことなのに、もうほぼ2時間半経過してしまっている。急ぎ、最大の目的地であるかばさきはちまんぐう樺崎八幡宮へ。市街地を離れ、田畑の中をハイケイデンスでぶっとぼすっしょ。しかし、急いで行ったのに片道40分程度。関東平野ヤバイ、超広い。道端にまだ雪が残るなか延々のサイクリングは手がかじかんで仕方なかった。

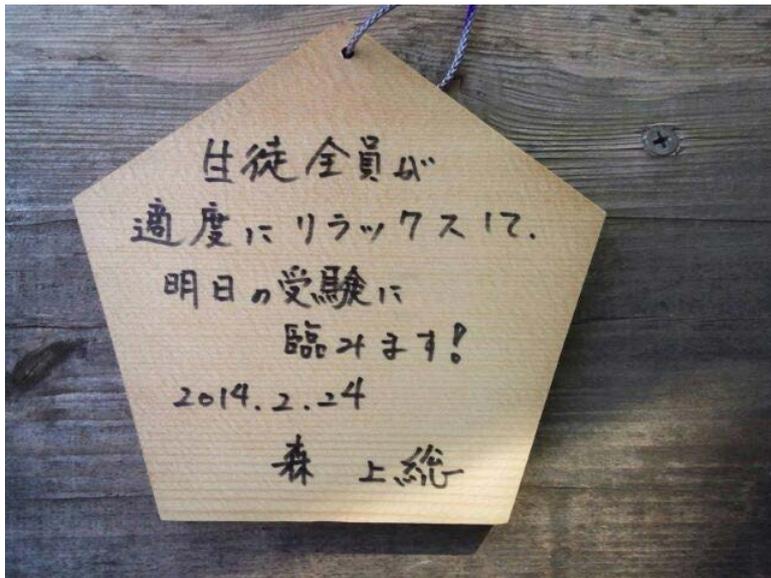
樺崎八幡宮は鑿阿寺が屋敷から寺となったあとにその奥の院として作られた、すなわち元は寺だったもの。近年、ある作品に登場する神社のモデルになったことで知名度を上げている。しかし、こちらにはのぼりも何もなく、単に神社でした。

お参り。そして、やはり絵馬を書く。



権崎八幡宮

ところで僕はみんなの心の縁よすがになれたかな



またこのパターン

肯定文の方が暗示はわかりやすいとのこと

7

いっそ返却時間を過ぎるなら、と駅に戻る途中で寄り道し、有名な渡良瀬橋を見てきました。結局レンタサイクル尊氏号を返せたのは借りてから約5時間後で、追加料金400円を支払ってきました。校舎へのお土産に渡良瀬橋クッキーをいくつか購入し、また3時間かけて東京都心部に戻る。

前日が夜行バスで睡眠不足。今日は今日で長距離サイクリング。疲れがたまっていたのでしょう。今夜は、オフトンに入るや否や瞬く間に夢の世界へ。

翌朝、6時起床、6時半に宿泊地を出て東大本郷キャンパス正門へ。正門にはきっかり7時半に到着。松下先生と合流。「研伸館」ののぼりを組み立て、あとは生徒を探す。探しやすいように、あとは見つけてくれた生徒が和むように、全身研伸館カラーの緑色になるように着替える。

「来年も東大の応援に来るの？」

と、松下先生。

「実は、来年は東大を受験する生徒をあまり担当しなさそうなので、ちょっと分らないです」

「そうか、僕もなんだよ」

「松下先生も来られるか分らないんですね」

少ししみじみする。と、

「あ、じゃあさ、来年は京大と一緒にいこうよ」

「そうですね！」

早くも1年先の話をし始める二人。この二人のカレンダーは二次試験の応援が区切りになっていそう。ま、予備校講師ですし。アリなんじゃないかな、と自己肯定。

しばらく待っていると、住吉校の生徒であるとか、西宮校で中学生の時に担当していた生徒であるとか、知った顔がやってくる。

「せんせー、目立ってんなー」

「やるー(笑) がんばってくんねんでー」

と、昨日の「合格飴」と松下先生が持ってきてくださった「研伸館カイロ」を配る。

8時40分、受験生の流れが途絶えてくる。京大に急ぐ松下先生に配り残った「合格飴」を託し、こちらは帰りの夜行バスの時間まで暇つぶし。行きのキップを取るとき、帰りのキップまで併せて取ったのは失敗だったかも。松下先生のように京大に移動すれば良かったと思うも後の祭り。

唯一無二の雰囲気呈する東大受験の朝。この喧噪を目の当たりにするのは、次はいつになるのだろう、とか考えながら生徒の成功を祈りつつ電気街に歩を進めた。